

	いつから	対象	実施団体	実施方法	成果
琵琶湖(滋賀県)					
外来魚	H14～	オオクチバス・ブルーギル	漁業者(県が捕獲経費補助)	<ul style="list-style-type: none"> ・エリ(小型定置網)や刺網による捕獲 ・タモ網による稚魚の捕獲、駆除 ・電気ショックカーポートによる産卵期の親魚の集中捕獲 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲した外来魚は魚粉等の原料に ・殺処分後、堆肥として利用
	H28/5～		一般の方	<ul style="list-style-type: none"> ・外来魚釣り上げ名人事業による駆除(回収BOXの設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・殺処分後、堆肥として利用
その他 外来種	H25	オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ	県	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機器、水草刈り取り機(ハーベスタータイプ)により駆除 ・ジェットポンプを使った人力駆除も併用 ・水深の浅い部分まで駆除できるクラムシェル付台船を開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・半分以下に減少 ・前年度の機械駆除からの再生を確認 ・堆肥化不可能のため、焼却処分している
	H19～	ミズヒマワリ	県、環境保全団体、ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼゼロへ
伊豆沼(宮城県)					
外来魚	H16～	オオクチバス・ブルーギル	東北地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・定置網、刺し網、電気ショックカーポートによる捕獲、駆除 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時の1/15まで減少
	H16～		ボランティア(バス・バスターズ)、伊豆沼漁協	<ul style="list-style-type: none"> ・池干しによる駆除 	<ul style="list-style-type: none"> ・「低密度管理」段階に到達 ・オオクチバスは数分の1に減少し、在来種の個体数は回復
	H21		農水省		
	H27	ブルーギル	東北地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・アイ籠の設置(電気ショックカーにより捕獲し、罟として入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・罟付き籠のほうが3倍採捕された
その他 外来種	H27/7～	ハス	東北地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・船外機の着いた船に、刈払い装置を装着し除去 	<ul style="list-style-type: none"> ・約3haのハスを刈り払い、マガンのねぐらを提供
	H25～	オオハンゴウソウ	県	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機、引き抜き作業により除去 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の5%にまで減少した